

滋賀医科大学

環境報告書 2016

(平成 27 年度活動報告)



編集方針、目次

編集方針

～「環境報告書 2016」の編集にあたって～

本報告書にて、国立大学法人滋賀医科大学の環境・社会活動について、平成 27 年度の取り組みと実績、今後の計画を報告します。作成にあたり素案をワーキングメンバーで校正し、建築・環境委員会及び役員会で審議しました。

目次

1. トップメッセージ	p.2
2. 大学概要	p.4
3. 報告対象	p.6
4. 環境負荷	p.7
4.1.マテリアルフロー	p.7
4.1.1.エネルギー消費量	p.8
4.1.2.温室効果ガス排出量	p.9
4.1.3.電気・ガス消費量	p.11
4.1.4.水使用量	p.12
4.2.廃棄物排出量	p.13
4.3.グリーン購入状況	p.15
4.4.古紙回収の状況	p.15
5. 環境目標・実績	p.16
6. 環境活動情報	p.17
7. 社会活動情報	p.22
8. その他	p.24

1. トップメッセージ



滋賀医科大学学長 塩田 浩平

2015 年は人類にとって記念すべき年となりました。2020 年以降の温暖化対策の国際的枠組みである「パリ協定」に 196 もの国が合意したのです。京都議定書同様の法的拘束力を持ち、しかも経済発展の障害となりかねない協定にこれほど多くの国が参加したのは歴史上初めてのことです。交渉の段階では対立が目立った各国が、地球温暖化という共通の問題に対して団結して取り組む意志を最終的に示したことは、大きな成果といえるでしょう。

この協定では、世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して 2 度未満におさえるための行動を各国に求めています。我が国は温室効果ガスを 2030 年までに 26%削減(2013 年比)する目標を提出しました。この目標を達成するための国内の体制整備が今後進められていくこととなります。

ふりかえって本学での温室効果ガス排出の状況を確認しますと、そのほとんどがエネルギー起源となっています。附属病院をかかえているためエネルギーを多く消費する傾向は避けられず、それがそのまま温室効果ガス排出増につながっています。そこで私たちは、最も効果的な温室効果ガス削減対策として省エネルギーに取り組みました。活動の詳細は本書に記載されていますが、2015 年度は前年と比べてエネルギー総量で 3.9%の削減、2013 年と比べると 5.7%の削減を達成しました。

本学は、「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学」として、人々の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献するため、次の 3Cを推進しています。

Creation: 優れた医療人の育成と新しい医療・医学の創造

Challenge: 優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決への挑戦

Contribution: 医学・医療・看護を通じた社会貢献

この活動を進めるために、現実には多くのエネルギーを消費し、温室効果ガスを排出しています。温室効果ガス排出量を最小限にして環境へのインパクトを抑える努力を続けてまいります。医療、とりわけ人々の健康と地球環境とは密接な関係がありますので、医療人育成を使命とする本学としては、環境マインドを備えた医療人を輩出し、地域と地球環境により一層貢献していく所存であります。

2. 大学概要

役員

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

学長	塩田 浩平
理事	山田 尚登
理事	松末 吉隆
理事	小笠原 一誠
理事	竹田 幸博
監事	井尻 正博
監事	梅山 克啓

職員・学生数

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

職員数

役員	5(2)	人
教員	369(2)	人
事務職員	137	人
技術職員	783	人
計	1294(4)	人

(注) ()内の数字は、外数で非常勤を示します。

医学部学生数

医学科	690	人
看護学科	256	人
計	946	人

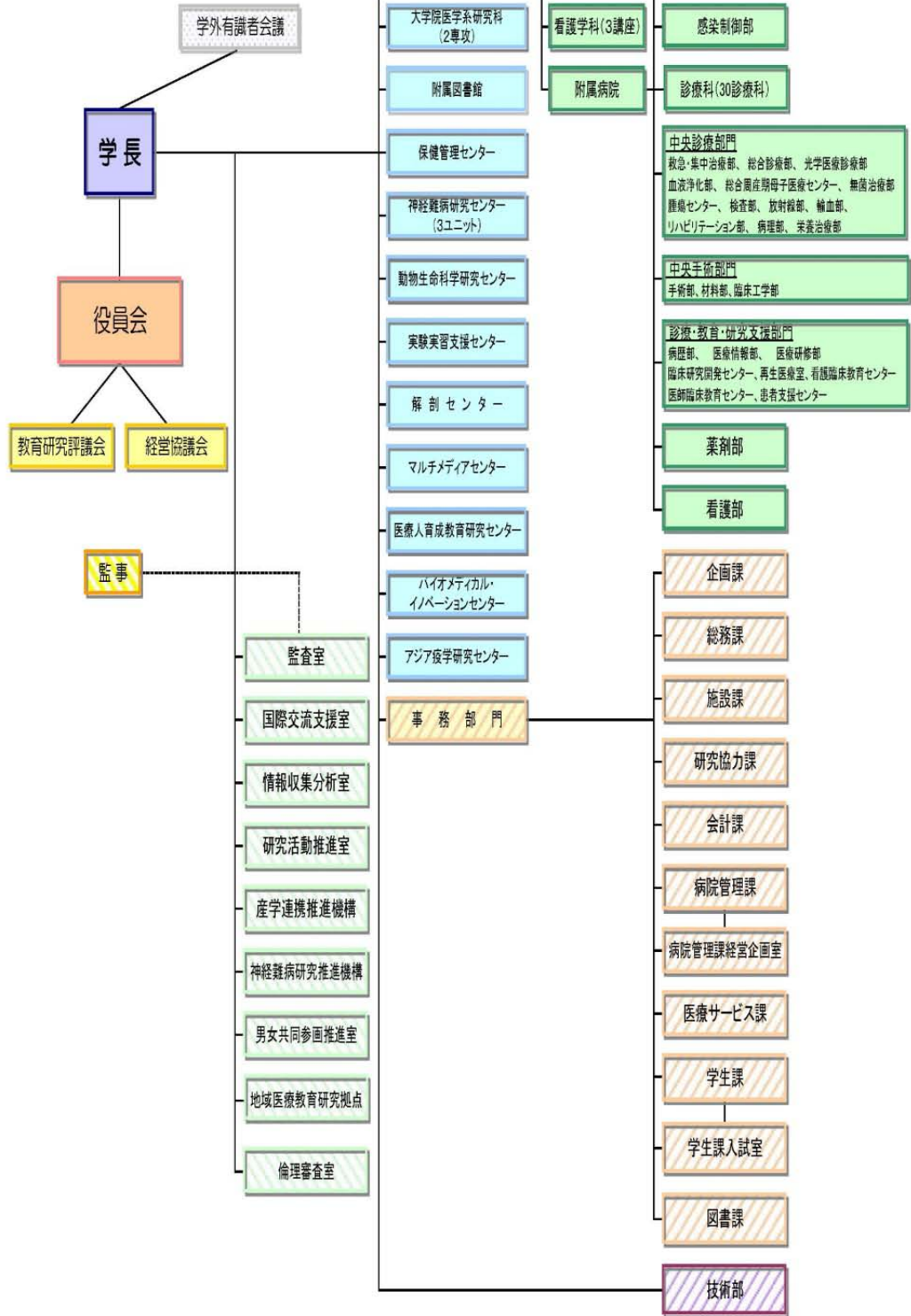
大学院医学系研究科学生数 207 人

土地・建物

土地	233,018m ²
建物延面積	120,267m ²

国立大学法人 滋賀医科大学 組織図

(平成28年04月01日)



3. 報告対象

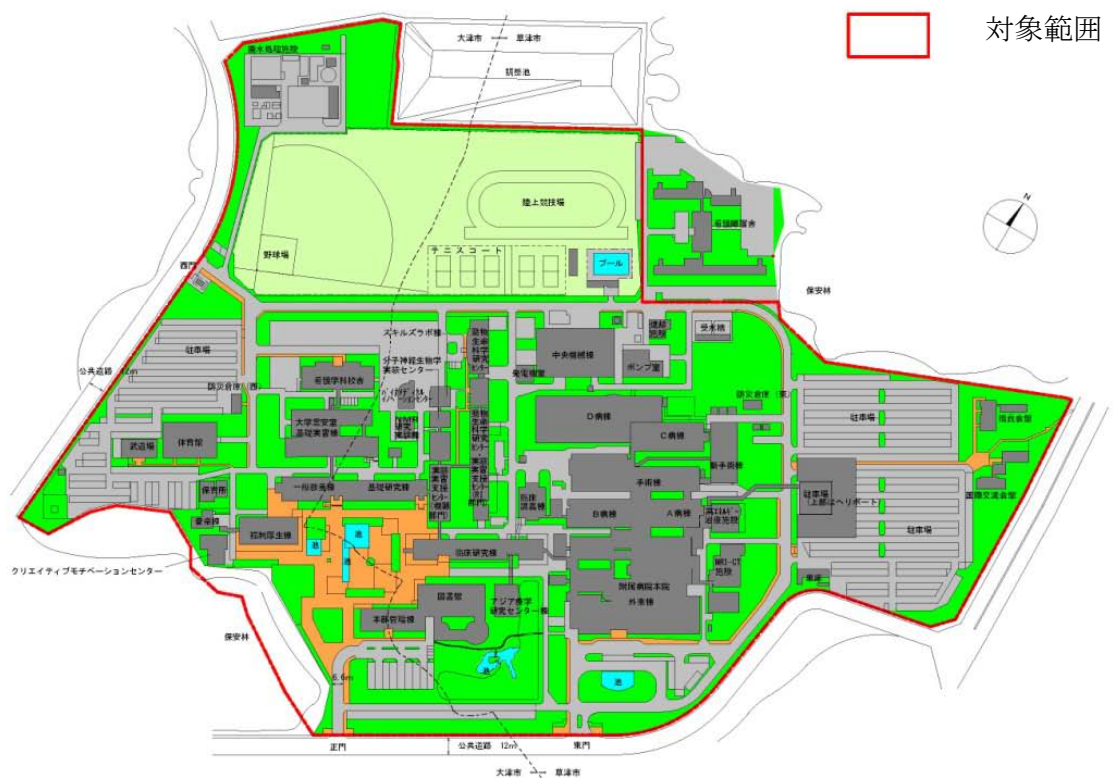
期間 平成 27 年度(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

範囲 医学部、医学部附属病院、附属図書館、事務部門
(瀬田月輪団地の看護師宿舎を除く全てを対象としています。)

公表時期 平成 28 年 9 月

参考としたガイドライン

環境省「環境報告書の記載事項の手引き(第 2 版)」



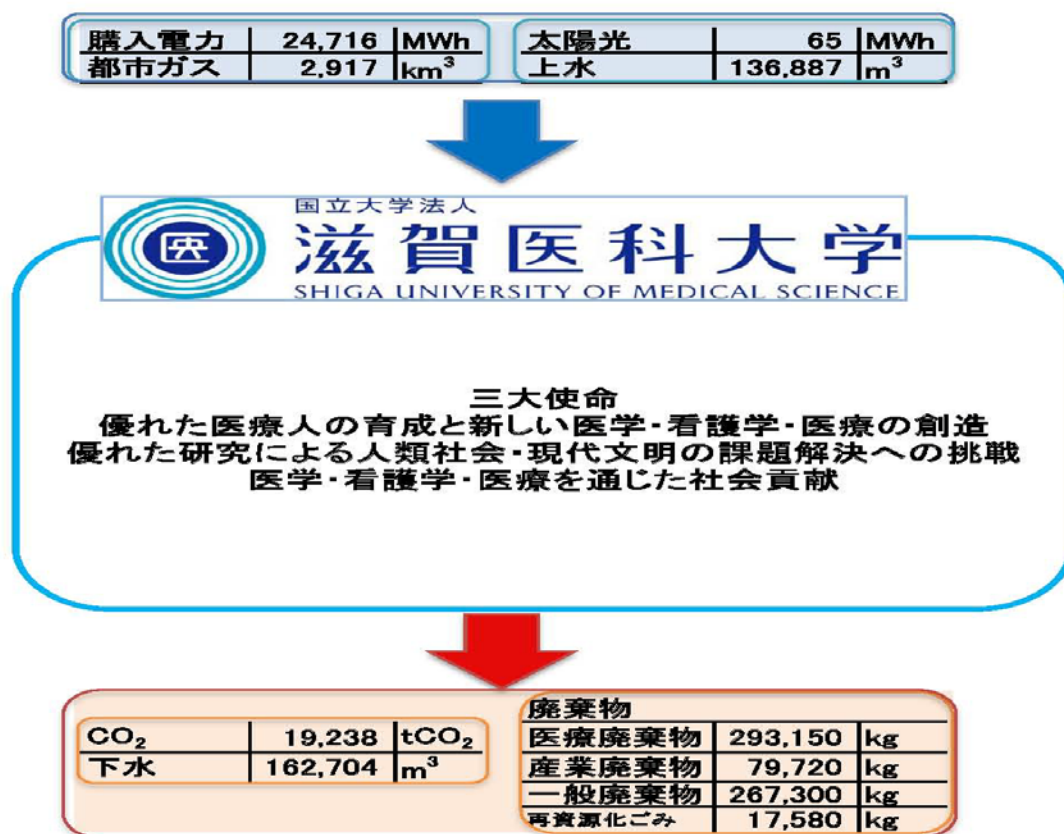
構内配置図

4. 環境負荷

平成 27 年度に滋賀医科大学で消費されたエネルギー量等(電気ガス上下水道)、廃棄物排出量および環境負荷について示します。

4.1 マテリアルフロー

本学の資源・エネルギーの供給・消費と廃棄物等の排出をマテリアルフローとして以下にまとめました。



4.1.1. エネルギー消費量

本学のエネルギー消費量を電力・都市ガス使用量より算出した結果を下記に示します。

平成 27 年度は平成 26 年度と比較して、エネルギー総量で 3.9%、建物延床面積あたりで 4.4%の減少となりました。

エネルギー消費量の減少の理由として、外気負荷の低下および、各種省エネ活動(6.環境活動情報を参照)の成果が考えられます。

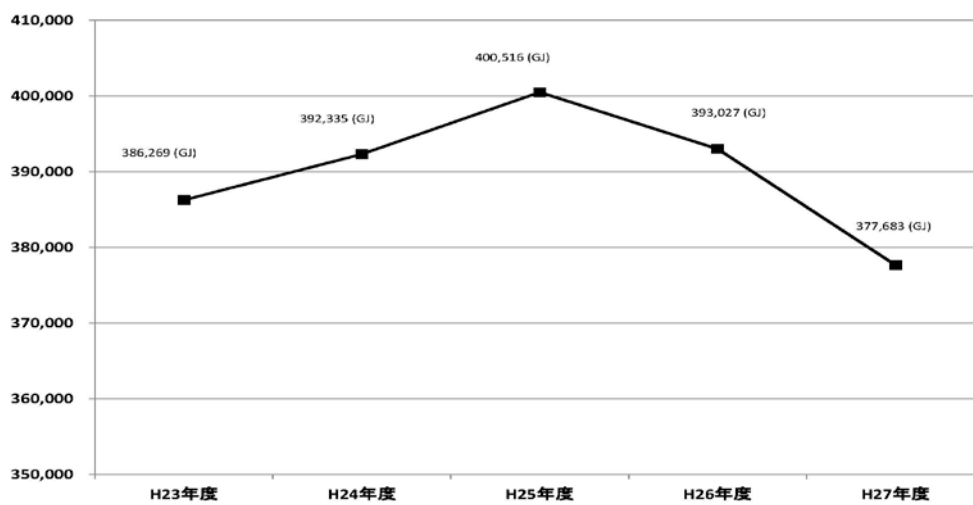


図 1. 過去 5 年間の総エネルギー使用量の推移

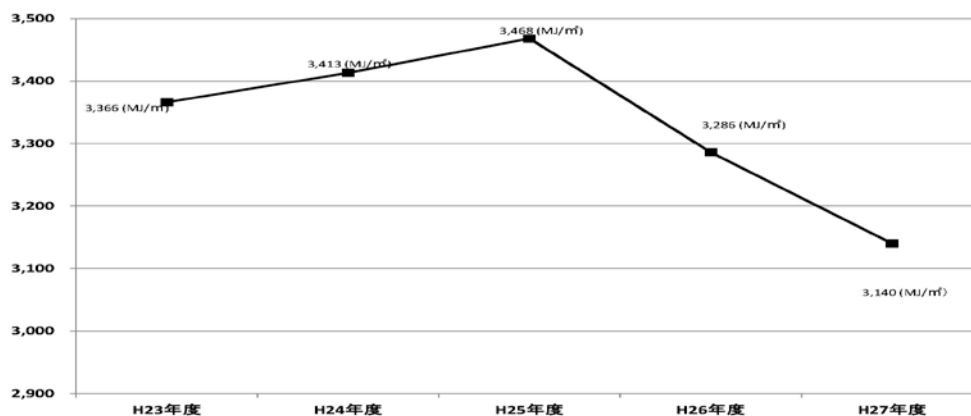


図 2. 過去 5 年間の建物延床面積あたりのエネルギー使用量の推移

4.1.2. 温室効果ガス排出量

本学の温室効果ガス排出量に関わる対象物質は電力・都市ガスとなります。平成 27 年度は 19,238[tCO₂]であり、建物延床面積あたり 160[kgCO₂/m²]の排出となりました。

前年度排出量と比較し、総排出量は、4.1 %削減できました。

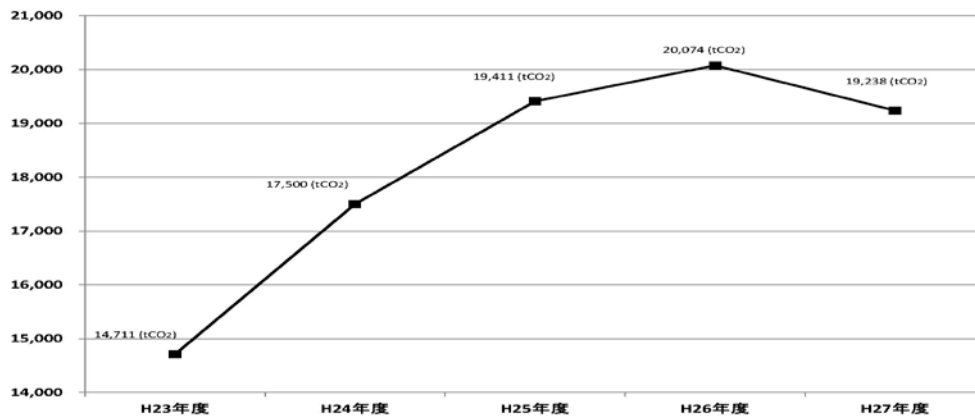


図 3. 過去 5 年間の CO₂ 総排出量の推移(関西電力調整後係数)

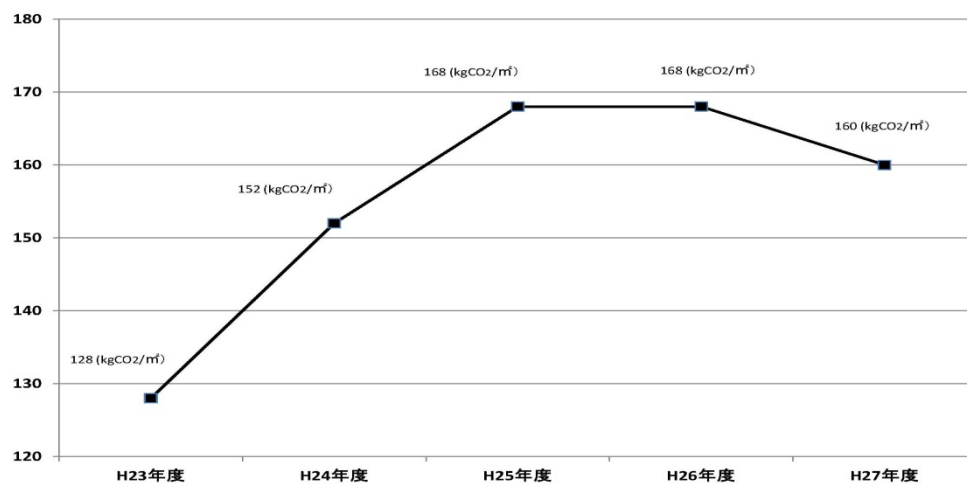


図 4. 過去 5 年間の建物延床面積あたりの CO₂ 排出量の推移(関西電力調整後係数)

またデフォルト値での総排出量は 20,263[tCO₂]、建物延床面積あたり 168[kgCO₂/m²]となりました。建物延床面積あたりの排出量が過去 5 年間で最低値となり、各種省エネ活動の成果が出ていると言えます。

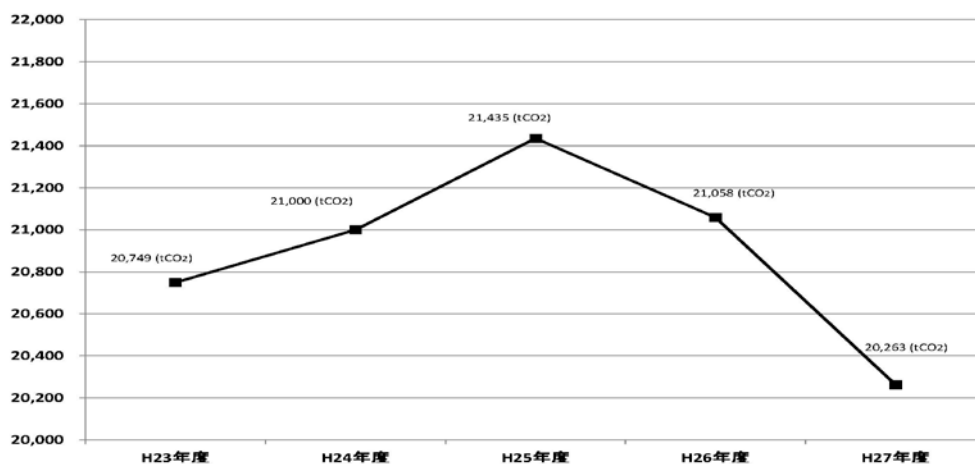


図 5. 過去 5 年間の CO₂ 総排出量の推移(デフォルト値)

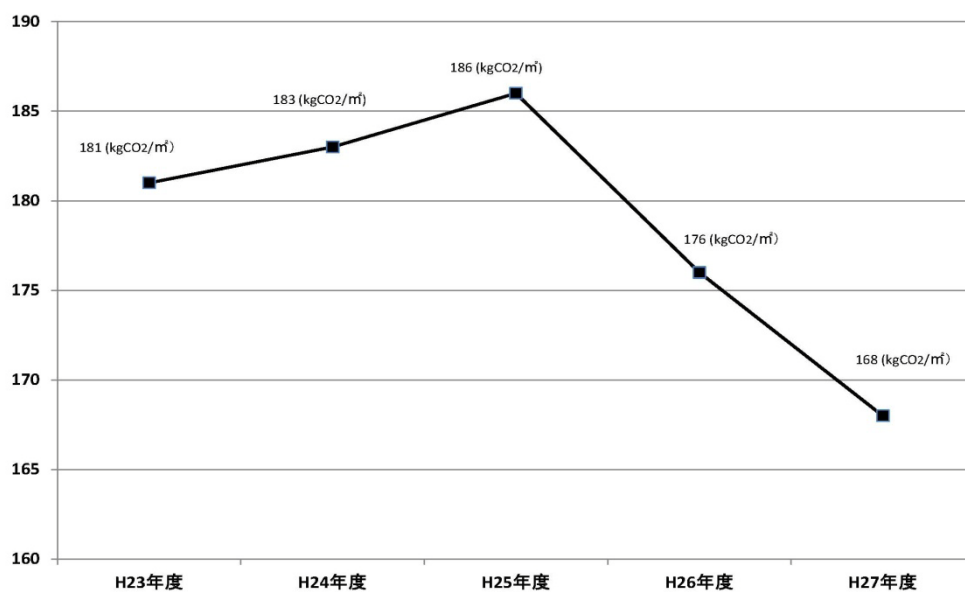


図 6. 過去 5 年間の建物延床面積あたりの CO₂ 排出量の推移(デフォルト値)

4.1.3. 電気・ガス消費量

以下に電力・都市ガスの使用量の推移を示します。

また、電力使用量における前年度比は 2.1 %削減できました。都市ガス使用量も 7.1 %削減できました。

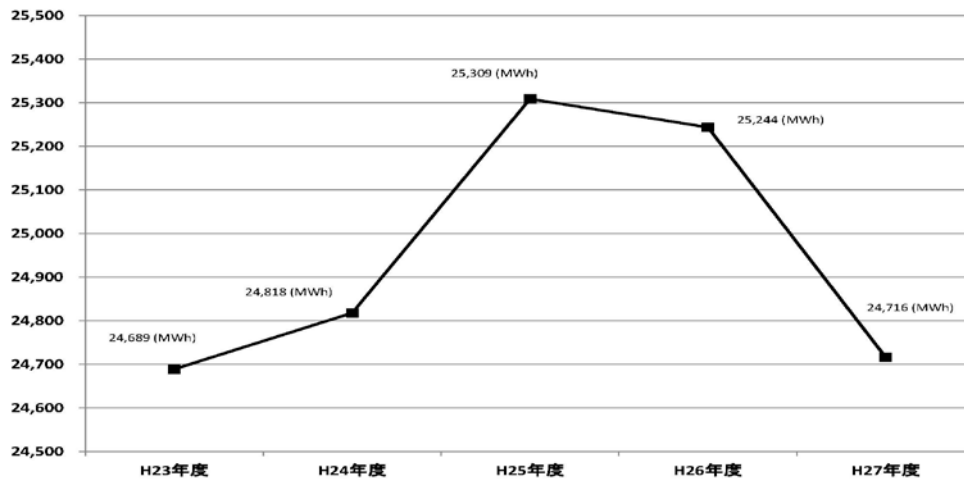


図 7. 過去 5 年間の電力使用量の推移

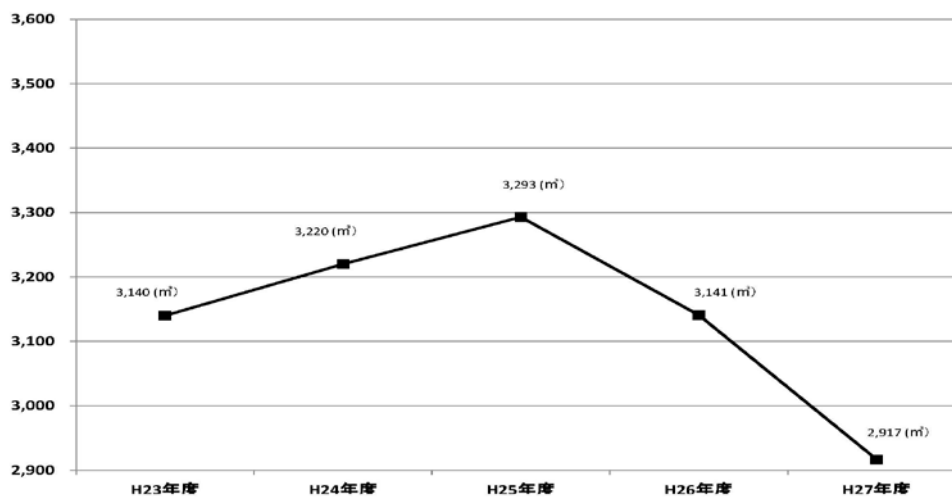


図 8. 過去 5 年間の都市ガス使用量の推移

4.1.4 水使用量

以下に上水および中水^{注1)}の使用量を示します。

上水・中水共に使用量は減少しています。これは、省エネ活動に加え、昨年度より平均的な外気温が下がっていること、プールにおける補給水制限等の節水活動したためと考えられます。

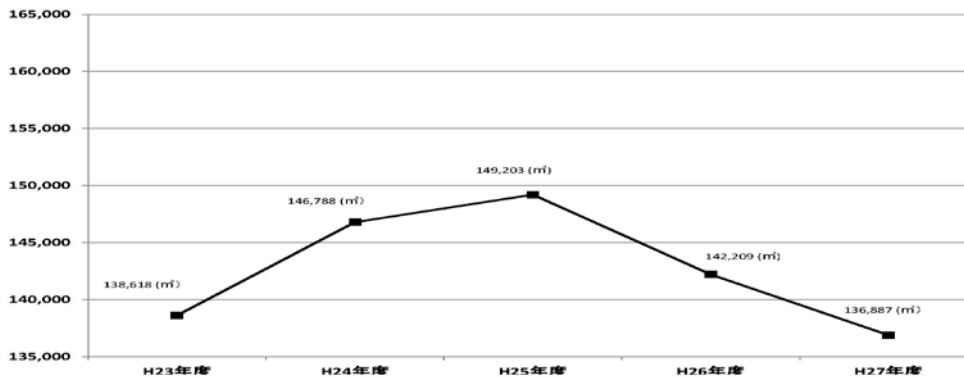


図9. 過去5年間の上水使用量の推移

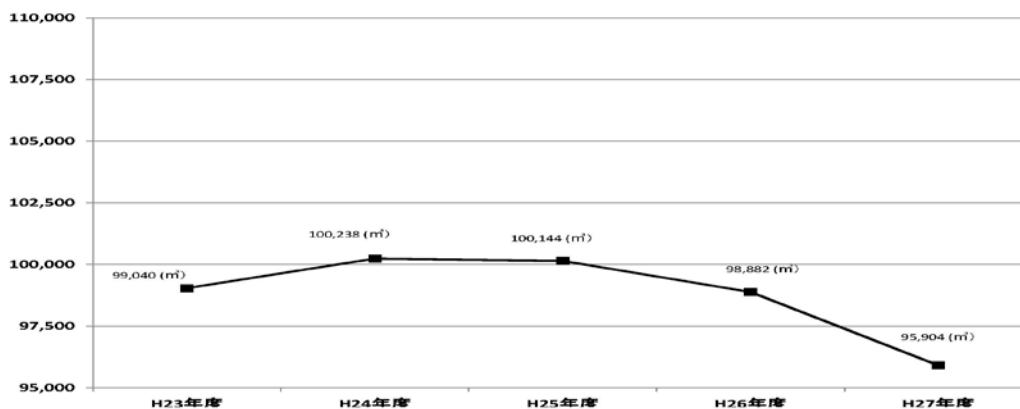


図10. 過去5年間の中水使用量の推移

注1) 中水とは

滋賀医科大学にて排水された実験排水を薬品処理した再利用水と、地下水を汲み上げろ過塔にて処理した水を合わせたものです。主な使用用途としてトイレの洗浄水が挙げられます。

4.2.廃棄物排出量

以下に廃棄物の排出量の推移を示します。本廃棄物とは医療廃棄物、産業廃棄物、一般廃棄物、再資源化ごみを示します。

平成 27 年度は、657(t)であり、前年度比 3%増となっています。その原因となっているのは、病床稼働率で前年度 84.9%に対して平成 27 年度では、87.5%と 2.6%増となっていることと、手術件数も前年度 6,166 件に対して平成 27 年度は、6,467 件と 271 件も増えていることが要因として考えられます。

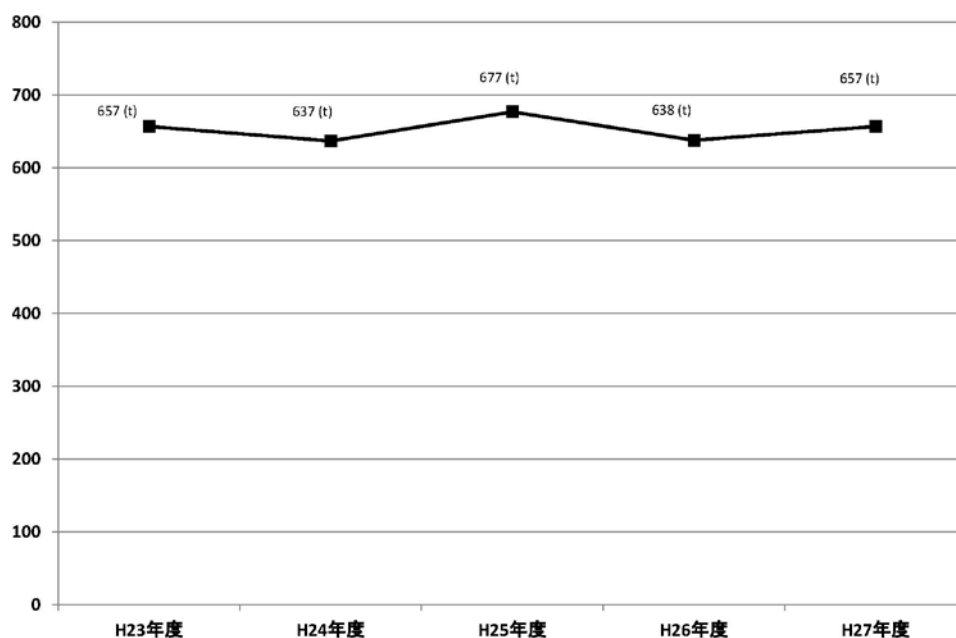


図 11. 過去 5 年間の廃棄物排出量の推移

【廃棄物の適正な処理】

(医療廃棄物について)

医療廃棄物とは、血液・血清・血漿並びに体液、血液製剤、病原微生物に関連した試験・検査等に用いられた試験器具・培地・透析器具、血液等が付着した鋭利なもの及びその他血液が付着したものが廃棄物として排出されたものを指します。本学では、「滋賀医科大学排水・廃棄物管理等規程」を制定し、管理体制を整備するとともに、これら感染性廃棄物の搬出・処理の過

程において感染事故が発生しないよう努めています。

また、基本的には医療廃棄物は発生時点で他の廃棄物と分別して排出し、絶対に混入してはならないことになっています。従って、医療廃棄物を排出する際には必ず本学が指定する専用の段ボール箱又はポリ容器を使用し、その管理には万全を期しています。

（医療廃棄物の処理）

医療廃棄物は、各部署から専用の段ボール箱及びポリ容器で搬出され、清掃請負業者によって専用の集積場所に搬入されています。そして、ここに集められた医療廃棄物は、産業廃棄物委託業者が週に 4 回程度の割合で収集運搬・処理をします。その際には、電子マニフェストシステムに登録して排出から最終処分までの処理が適正に行われていることを確認しています。

（産業廃棄物について）

産業廃棄物については、医療用に用いられたプラスチック類、医療用缶、医療用ビン、その他一般用ビンなどに分かれます。

これらの分別された産業廃棄物は適切に処分し、一部はリサイクルされています。

（一般廃棄物について）

一般廃棄物については日常生活で発生する一般ごみ、缶、ペットボトルに分類されます。この中で一般ごみは、本学の所在地である大津市の分別方法に従って分別しており、分別された一般廃棄物は大津市の処分場に搬入しています。また、缶及びペットボトルは再資源化ごみとして処理しています。

（廃棄物の分別について）

廃棄物の分別については、「滋賀医科大学における廃棄物の分別方法」の一覧表を作成し、関係部署に周知しています。この一覧表は区分毎に例示図柄を用いることにより、一目で確認できるよう工夫しています。

4.3 グリーン購入状況

本学では、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)に基づき、環境負荷低減に資する製品・サービスなどの調達を進め、毎年度の状況の実績を関係省庁に報告しています。

環境負荷低減に資する製品・サービスとは、グリーン購入法において、「原材料・部品・製造方法等や、使用時に環境への負荷を低減しているもの」「これらの製品等を用いて行われるサービス」等を言い、これらの製品にはカタログにグリーン購入法適合商品を意味するグリーンマークやエコマーク等の環境保護マークが付され、選びやすくされています。

物品の選択にあたって、本学でも環境保護マークの認定を受けている製品または、これと同等のものを調達するよう努めると共に、特定調達品目にはされていないトナーカートリッジの調達に当たっては、出来る限り再生品の調達に努めています。

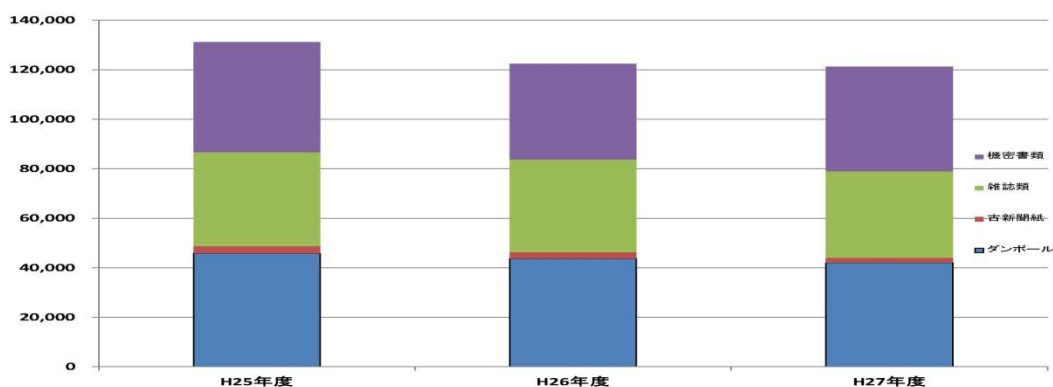
また、OA 機器、家電製品については、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものの調達に努めるなど環境保全に配慮された物品を調達することに配慮しています。

そのほか、役務の提供事業者、公共工事の請負事業者等に対しても、グリーン購入を推進するよう働きかけています。

平成 27 年度のグリーン購入実績も 100%となっています。

4.4 古紙回収状況

本学では古紙回収を実施しており、随時専門の業者が回収し資源化しています。平成 27 年度においては、ダンボール 42,100[kg]、新聞紙 1,990[kg]、雑誌類 34,880[kg]、機密書類 42,300[kg] 回収し、資源化しました。



5. 環境目標・実績

本学が設定している環境目標と27年度実績を整理したものが下表です。

エネルギーや水は、目標を達成しましたが廃棄物については、達成できませんでした(詳しくは、「4.環境負荷参照」)。

環境側面		目標	実績	実施事項
エネルギー		建物延床面積あたり前年度比1.0%以上の削減 3.286 MJ/m ²	3,158 MJ/m ² 前年度比 3.9%削減	照明の部分消灯
				照明のLED化
				パソコン省電力の徹底
				エアコン消し忘れ防止
				自動販売機の消灯
				クールビズの実施
				外灯制御
				太陽光パネルの清掃
				講座・課・室単位での節電計画の作成
				環境に配慮した工事(変圧器更新等)の実施
管理棟等の最新型空調機器の導入				
資源	上下水	現状維持 上水：142km ³ 下水：163km ³	上水：136km ³ 下水：162km ³ 前年度比 上水 4.2%削減 下水 0.6%削減	節水コマの使用
				自動水栓の導入
				節水型便器の導入
				月別上下水道の使用量のHPでの掲載
				中水の活用
廃棄物	現状維持 638t	657t 前年度比 2.9%増	メール等を用いた不要物品のリユース	
			3R {リユース リデュース リサイクル} の実施	

6. 環境活動情報

【ソフト面での省エネ・省資源対策】

○省エネルギー・省資源への啓発活動

夏季や冬季のピーク電力の削減を目標とした省エネ活動を中心に活動を進めました。

具体的な内容を下記に示します。

- ・HP や学内掲示板への具体的なエネルギー対策の公開
- ・講座・課・室単位での節電計画の作成および実施状況の確認(次項参照)
- ・照明の部分消灯(間引き等を含む)
- ・照明の LED 化(病棟のベッド灯等球切れしたものから順次 LED 電球に取替)
- ・夏季の暖房便座の電源 OFF(洗浄機能は使用可能)
- ・パソコンの省電力の徹底(HP に節電マニュアルの公開)
- ・エアコンの消し忘れ防止(一定時間に強制 OFF 設定)
- ・自動販売機照明の消灯
- ・クールビズ・ウォームビズの推進
- ・夜間の人通りが無い箇所の外灯の消灯
- ・太陽光パネルの清掃(6GJ のエネルギー効率の改善の見込)

○換気(外気量)の適正化

空調設備における換気量の適正化を図りました。これにより 1,643 (GJ)削減しました。

○節電計画書

下記のような節電計画書を各講座・事務部門の各課室に作成・提出を依頼しました。また一部の講座に対し、それに則った節電行動がとれているかを確認することでソフト面での省エネを推進しました。

課室節電計画書

(別紙)

各課室の節電対策を実施する責任者を選任のうえ、連絡先等を以下に記入してください。
節電責任者は実務的に指示ができる方を立ててください。

課室名	
節電責任者名	
内線	
連絡先メールアドレス	

1月5日から3月31日の冬季節電期間に各課室で実施いただく節電内容を下表に記入いただきます。

節電活動例が下表「節電対策」欄にすでに記入されています。貴課室で取り組む対策については「実施」欄に○を記入してください(取り組まない活動には○記入は不要です)。

「節電対策」欄にすでに記載されている項目以外に課室が独自に取り組む対策があれば、「その他事務室で実施できる節電項目」に記入のうえ、「実施」欄に○を記入してください。

節電責任者を中心にこの計画を実施してください。

節電対策の実施状況を建築・環境委員会が調査に伺うことがあります。

節電対策	節電対策の解説	実施
パソコン省エネ設定		
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタの輝度を下げる ・モニタが節電モードになるまでの時間を短くする ・システムスタンバイまでの時間を短くする 	モニターの輝度を下げたり、モニター電源を切る時間を短くしたり、システムスタンバイまでの時間を短くする設定をお願いします。設定方法等くわしくはこちらをご覧ください。 (http://gakunai.shiga-med.ac.jp/mmc/setsuden2011/)	
エアコン20℃設定		
<ul style="list-style-type: none"> ・設定温度20℃の確認 	温度制限のない部室のエアコンの温度設定は20℃としてください。	
不使用OA機器のコンセントを抜く		
<ul style="list-style-type: none"> ・サーバーの電源を抜く ・ハブの電源を抜く 	使用していないサーバーやハブの電源はコンセントから抜いてください。	
照明間引き		
<ul style="list-style-type: none"> ・蛍光灯の間引き 	事務室・研究室の蛍光灯削除をお願いします。蛍光管を外すのが好ましいですが、スイッチによるコントロールでも構いません。前者の場合は施設課電気係(内線2056)に蛍光管取り外しの作業を依頼ください。後者の場合は、間違っただ点灯することのないような措置(掲示等)をお願いします。	
プリンター、FAX、コピー機などの稼働台数の集約化		
<ul style="list-style-type: none"> ・プリンター(複合機含む)稼働台数の集約 ・ファックスの稼働台数の集約 ・コピー機の稼働台数の集約 	おおむね500W以上の機器について集約・停止をお願いします。	
非実験用の冷蔵庫や電子レンジ等の集約化		
<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫、冷凍庫の集約 ・電子レンジの集約 ・電気ポットの集約 ・コーヒーメーカーの集約 ・炊飯器の集約 	非実験用冷蔵庫、電子レンジ電気ポット、コーヒーメーカー、炊飯器などは電力が大きいので集約・停止をお願いします。	
その他、研究室で実施できる節電項目		
	その他研究室で実施できる項目があれば記入してください。	

【ハード面での省エネ・省資源対策】

○環境に配慮した空調設備改修工事

平成 27 年度には、国際交流会館並びに分子神経科学研究センター及び本部管理棟の空調設備の改修工事を実施しました。これによる環境負荷軽減等は下記の通りです。



本部管理棟空調設備ガスヒートポンプから高効率電気式エアコンに更新
室外機5台(冷房能力合計 279kW)、室内機等 33 台



国際交流会館老朽化の空調設備を高効率エアコンに更新
室外機 11 台(冷房能力合計 30kW)、室内機 15 台



分子神経科学研究センター老朽化の空調設備を高効率エアコンに更新
室外機5台(冷房能力合計 103kW)、室内機 18 台

これらにより、261(GJ/年)削減することが可能となります。

○変圧器更新による省エネルギー

平成 27 年度に本学附属病院の第 1 電気室、第 2 電気室にある老朽化した変圧器をトップランナー変圧器(高効率な変圧器)に更新しました。これにより 274(GJ/年)削減することが可能となります。

今後も老朽化している変圧器を積極的に更新し、高効率化による省エネルギー化を進めてまいります。

<平成 27 年度に更新した変圧器>

【第 1 電気室】

附属病院 No.1Tr 150kVA
附属病院 No.3Tr 200kVA
附属病院 No.5Tr 100kVA
附属病院 No.8Tr 300kVA
附属病院 No.9Tr 200kVA
附属病院 No.10Tr 75kVA

【第 2 電気室】

附属病院 No.1Tr 100kVA
附属病院 No.3Tr 200kVA
附属病院 No.5Tr 500kVA
附属病院 No.6Tr 500kVA
附属病院 No.7Tr 500kVA
附属病院 No.8Tr 500kVA
附属病院 No.10Tr 200kVA

更新した変圧器



○滋賀医科大学中長期省エネルギー計画の検証

下記のような中長期省エネルギー計画を平成 26 年度に作成しました。平成 27 年度における、ハード面での省エネ・省資源対策がこの計画では 900 (GJ)としていましたが、それを上回る 1,750 (GJ)の事業が実施できました。これは、過去に実施できなかった事業を平成 27 年度に実施できたためです。過去3年間を振り返ると中長期省エネルギー計画における予定事業の 95%を実施できました。事業予算が確保できず若干の事業は、実施に至っておりません。予算の確保が今後の課題です。

滋賀医科大学中長期省エネルギー計画

項目	概要	削減電力量 (kWh)	削減ガス量 (m ³)	工事費 (千円)	年間削減光熱費 (千円)	回収年	単位: GJ										財源(案)		
							H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34			
特別医室エアコン	個別エアコン設置し、大型空調の運転時間短縮を図る	34,281	0	-	576		342												-
臨床・基礎高効率変圧器	老朽化した変圧器をトップランナー機器へ更新	62,473	0	-	1,350		623												-
国際交流会館エアコン	設置後17年が経過しているため、高効率エアコンに更新	5,585	0	-	94		94	38	38										学内経費
分子神経エアコン	設置後28年が経過しているため、高効率エアコンに更新	11,525	0	-	194		194	38	38	38									学内経費
臨床基礎高効率エアコン	建物改修にあわせて高効率エアコンに更新	14,427	0	-	242		242	144											施設整備補助金
福利棟高効率エアコン	建物改修にあわせて高効率エアコンに更新	7,830	0	-	132		132	78											-
中水設備改修	送水ポンプのインバーター化により省エネを図る	29,000	0	-	420		420	-	217										-
体育館・福利厚生棟高効率照明	効率のよい照明器具に更新	43,120	0	-	308		308	-	430										-
蒸気管バルブ等保温	ボイラー室等の蒸気管バルブを保温し、放熱ロスを減らす	0	27,005	4,000	2,960	2	2,960	2	1,215										学内経費
病室LED照明	指定で使われている白熱照明を効率のよいLEDに更新	12,194	0	1,436	171	8	171	8		102									学内経費
図書館高効率エアコン	中央制御方式から最新制御方式に更新し、省エネを図る	-63,000	50,400	-	3,720	-	3,720	-	1,640										施設整備補助金
図書館・武道場高効率照明の採用	効率のよい照明器具に更新	52,530	0	-	883		883		574										財源センター補助金
病院第二電気室変圧器更新	老朽化した変圧器をトップランナー機器へ更新	43,373	0	10,559	313	13	313	13		482									施設
臨床高効率エアコン	中央制御方式から電気式個別エアコンに更新し、省エネを図る	-150,780	120,624	228,563	3,902	25	3,902	25		1,962	1,962								施設整備補助金
臨床基礎コンベクター撤去	不要となっているコンベクターを撤去し、放熱ロスを減らす	-832	2,275	130	202	1	202	1		47	47								施設整備補助金
臨床高効率照明	効率のよい照明器具に更新	139,500	0	25,384	2,344	11	2,344	11		695	695								施設整備補助金
病院第一電気室変圧器更新	老朽化した変圧器をトップランナー機器へ更新	27,852	0	6,297	468	13	468	13		278									施設
尿水処理施設高効率照明	効率のよい照明器具に更新	3,540	0	3,442	59	58	59	58		35									施設整備補助金
国際交流会館変圧器更新	老朽化した変圧器をトップランナー機器へ更新	3,833	0	779	64	12	64	12		38									学内経費
実験実習支援センター高効率エアコン	中央制御方式から電気式個別エアコンに更新し、省エネを図る	33,643	0	52,926	1,405	38	1,405	38		278	278								施設整備補助金
実験実習支援センター高効率照明	効率のよい照明器具に更新	111,825	0	20,470	1,379	11	1,379	11		557	557						557		施設整備補助金
病院高効率エアコン	高効率に更新しなかったエアコンが耐用をむかえるため更新する	-95,571	76,457	238,203	5,142	46	5,142	46		1,244									施設
R動物実験施設高効率エアコン	中央制御部分に最新制御方式に更新し、省エネを図る	-779,358	232,907		9,037		9,037					1,370	1,370						施設整備補助金
動物実験施設冷凍機更新	老朽した冷凍機を最新高効率型に更新	91,440	0	302,306	1,536		1,536												施設整備補助金
R動物実験施設高効率照明	効率のよい照明器具に更新	104,062	0	19,099	1,748	11	1,748	11				346	346	346					施設整備補助金
中央機械棟変圧器更新	老朽化した変圧器をトップランナー機器へ更新	27,157	0	7,418	456	16	456	16		271									施設整備補助金
看護学科高効率エアコン	設置後17年が経過しているため、高効率エアコンに更新	128,819	0	54,900	2,131	26	2,131	26		421	421	421							財源センター補助金



平成 27 年度実施のエネルギー使用合理化効果

- 1) 高効率 エアコンに更新(本部管理棟等) 261 (GJ)
- 2) 高効率 変圧器に更新(附属病院各電気室) 274 (GJ)
- 3) 蒸気管バルブ等保温(ボイラー室等) 1,215 (GJ)
- 合計 1,750 (GJ)

7. 社会活動情報

本学では、教育、研究、診療等の活動を通じ社会・地域貢献を行っています。

■「在宅看護力育成事業訪問看護師コース」・「看護師特定行為研修機関」

超高齢化社会の到来を見据えた在宅看護師の養成開始や医師の指示を待たずに一定の診療の補助を行う看護師を養成する体制を整備し、国立大学として初めて研修機関として指定を受けました。

「看護師の特定行為研修」とは、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、病院での治療から在宅医療に移行させるため、医師等の判断を待たずに、手順書により一定の診療の補助(特定行為)を行える看護師を計画的に養成することを目的として、厚生労働省が平成27年3月に設けた制度です。

平成28年6月から、県内の病院や訪問看護事業所でニーズの高かった人工呼吸に関する3区分6行為の指定研修を開講しました。

今後、指定を受けた特定行為区分を順次拡大させるとともに研修生も増員し、地域医療の充実を図ることで、滋賀県が今後10年間を見据えて策定される「滋賀県地域医療構想」に積極的に貢献することを目指しています。

■「JCHO滋賀病院との連携強化」

滋賀医科大学では、「滋賀県地域医療再生計画」に基づき、平成22年6月に滋賀県、東近江市、(独)国立病院機構(NHO)と協定を締結し、NHO滋賀病院(現NHO東近江総合医療センター)に寄附講座を設置し、地域医療の再生に向けた教育・研究・診療活動を推進してきました。協定期間終了後は、平成26年4月にNHO及び東近江市と、さらに平成27年9月に(独)地域医療機能推進機構(JCHO)と、「地域医療教育研究拠点に関する協定」を締結し、NHO東近江総合医療センター及びJCHO滋賀病院に活動拠点を設け、医師派遣による地域医療支援と、地域医療を担える医師の養成等に努めています。

■「高次広域救命救急医療」

診療面では、地域医療中核病院として地域に不可欠な医療分野への対応に取り組んでおり、特にヘリポートの新設による高次広域救命救急医療の充実や南海トラフ地震に備えた体制を整備しました。

■「高大連携事業」

本学では、膳所高校、虎姫高校、立命館守山高校との間で協定を締結し、講義や

実習などの高大連携事業を行っています。そのほか、県内の進学校との間で進路別
の高大連携事業や、滋賀県教育委員会からの依頼でコアSSH事業「滋賀サイエンス
プロジェクト」を実施しています。

平成25年6月にオープンした「メディカルミュージアム」では、人体模型、骨格標本、
ヒト病理標本、バーチャルスライドシステムを配置しています。各校来訪の際にはミュ
ージアムの見学も行っています。

■「公開講座」

地域社会の方々への生涯教育を、医療人育成教育研究センター生涯学習支援室
で企画し、実施しています。がんや肝臓病、生活習慣病、口腔疾患など、社会的ニ
ーズを考慮しつつ、毎年幅広いテーマで開講しています。

■「社会的に要請の高い研究分野」

研究における社会貢献は、独自の研究活動を推進し、世界に発信することである
と考えており、アルツハイマー病、がん治療や生活習慣病医学などの社会的に要請
の高い研究分野において成果をあげています

8. その他

作成部署・お問い合わせ先:

滋賀医科大学施設課施設企画係

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL : 077-548-2052 FAX : 077-548-2049

e-mail : hqsisetu@belle.shiga-med.ac.jp

ホームページアドレス: <http://www.shiga-med.ac.jp/>